

とらいあんぐる菅生

特集

人権尊重教育

23年度 菅生中学校区3校 それぞれの取り組み

川崎市では、全国に先がけて2001年に「子どもの権利条例」を施行しています。子ども一人ひとりが尊重され、共に生きる社会の形成者の一人として、心豊かに成長することができるようにと、さまざまな教育活動が行われています。菅生中学校区3校ではどのような取り組みがされているのか聞きました。

| | |
|--|--|
| <p>菅生中学校 校長 松井隆夫</p>  | <p>本校では、平成19年度からNPO法人地球のステージに依頼して、「地球のステージ」公演を毎年体育館で実施しています。「地球のステージ」は医師桑山紀彦氏自らの作詞作曲によるオリジナル曲の演奏と語り、映像により構成されています。</p> <p>生徒たちは自己のまなざしを家族、友人、日本から世界へと広げることで、自分のまわりでは当たり前だが当たり前ではない現実を知り、「自分の命」、「他者の命」の大切さを実感します。また、世界の様々な国や地域で、戦争や地震によって苦しんでいる人が大勢いることを学びます。自分たちがどれだけ恵まれているかを自覚し、日常の困難を乗り越えようとする気持ちを持つようになります。今年度で5回目の「地球のステージ5」は、昨年度同様、生徒の心に訴えるものがとても大きかったと思います。静まりかえった体育館で、桑山紀彦氏のギターやバイオリンの演奏、語り、映像に聞き入る生徒たちは真剣そのもので、公演後は大きな拍手が鳴り止みませんでした。この感動を生徒だけではなく、多くの地域の方々にも味わって頂きたいと思います。24年は10月2日(火)10時開演予定です。是非おいでください。</p> |
| <p>菅生小学校 校長 柴崎淳</p> | <p>本校では、人権教育推進部会という組織があり、学年から1名と、級外から2名で組織し、児童指導にかかわる相談や、人権教育の推進について話し合っています。また、そこで提案されたものは、職員会議で共通理解をするようにしています。</p> <p>また、本校では共生・共育の充実を図るため、大学から講師を招いて、授業を見ていただき、アドバイスを受ける研修を全学級で行っています。よりよい人間関係をつくるのが、人権教育推進のため、大変重要だと考えています。</p> <p>平成22年度、23年度と川崎市の「健康教育推進校」として、体育の学習を中心に研究を進めてまいりました。そこでも大切にしてきたことは、「友だちとのかかわり」であり、ともに学ぶ姿勢や、互いに尊重することを大切に研究をしてきました。その成果も23年11月に報告会という形で公開しました。今後は、自分のまわりだけでなく、地域にも目を向けた人権の取り組みも考えていきたいと考えています。</p> |
| <p>稗原小学校 校長 岡部養一</p>  | <p>1月16日(月)に、アイリッシュハーブ奏者の永山友美子先生をお招きして、全校児童を対象に人権講演会を行いました。永山先生は楽しい語り口と素敵な演奏で60分間の講演をしてくださりました。「グリーンスリーブス」「植生の宿」「さんぽ」「千の風になって」などの演奏と共に、「夢はきっとかなう、努力しよう」「誉められて嫌な人はいない。たくさん誉めよう。拍手しよう」「美しい言葉を使おう。それには大人が手本になろう」「どんなことがあっても親より先に逝ってはいけない」「大好きな人といつまでも一緒にはいられない。友達、家族、命を大切にしてください」などたくさんのお話を聞きました。子どもたちは、時に笑い、時に口ずさみ、時に目を潤ませ、真剣に聞いていました。永山先生の一つひとつの教えは、今後生きていく上でどれも大切なことです。自分の胸にしっかりとおさめ、これからは役立てていってほしいと思います。</p> |

第8回 菅生音楽祭 無事閉幕

平成23年12月10日(土)



菅生中学校区の学校、自治会、関係する諸団体の協力を得て、8回目となる菅生音楽祭を菅生中学校・体育館にて開催しました。

今年は出演者を一般公募。昨年出演した10団体やクラブに加えて、新たに2つのクラブが応募し、合計12の団体やクラブが出演しました。

保育園児、小学生の踊り、合唱、太鼓連の演技に200人程の観客・関係者から熱い声援がありました。

今年は会場の受付に「川崎市東日本大震災被災者等支援基金」への募金をお願いしましたところ、5,816円の寄付金を頂きました。この支援金の全額を「川崎市東日本大震災被災者等支援基金」の口座へ12月22日に振り込みました。

ご協力有難うございました。



学習支援も4年目に

生涯学習委員会

2008年11月の菅生中「プラス1学習会」から始まった学習支援は、今年で4年目になりました。菅生中「プラス1学習会」、稗原小「算数名人」、菅生小は今年度から「ふれあい学習」という名称をつけて、三校それぞれに学校と話し合いを重ね、「子どもたちの基礎学力をのばすため」の活動を続けています。

「プラス1学習会」は部活動のない定期テスト前、面談期間、夏休みの学習相談時に行いました。プラス1講師が授業の進度に合わせて作成するドリルは生徒たちに大好評です。「算数名人」は11月10日から12月16日まで6回。今年度も2年生の掛け算九々の習得に確かなてごたえを感じました。「ふれあい学習」は1年生が12月13日～15日にたし算とひき算を、2年生が1月30日～2月1日に掛け算九々を、3年生は2月6、7、9日にそろばんのサポートに入りました。

子どもたちの学びたいという意欲にもっと応えられるように、今後も課題など解決しながら、より良い支援活動を続けていきたいと思います。



終了 学習支援 ボランティア講座

地域教育会議と菅生分館共催で実施した入門講座が終了。菅生中、菅生小、稗原小で実施している学習支援の実際を各校長先生に伺ったり、参加者で理想のボランティア像を話し合ったりと多彩な内容でした。希望者は学習支援の実際も見学、「懸命に九九を唱える姿に感動しました。こちらも一生懸命に聞いてあげなくてはと耳を澄ませました。」「どの子も一生懸命！基礎固めには十分な目があると本当にいいなと実感」と子ども達の真剣な姿に接した喜びが伝わります。講座からは6名の新ボランティアが生まれました。今後、地域の大人が子どもの有無や年齢に関わらず、地域の子どもの健やかな成長に関わってとの趣旨に少しでも応えられたらというのが今後の課題です。生まれたばかりのボランティアですが、皆さん意欲満々です。どうぞよろしく！



4 道親ネットワーク 団体紹介

菅生こども文化センター わんぱくリーダー

11月12日、菅生こども文化センターのわんぱくリーダーの世話役をしている菊池館長にお話を伺った。

菅生こども文化センターで昭和53年から始まった「わんぱく生活学校」のリーダーとして、子どもたちとの遊びの企画、実践を行っている。発足当初は大学生のリーダーたちが応援に来ていたが、昭和55年のキャンプの時集中豪雨に遭遇し、その時中学生たちが「僕たちにできることはないか」とテントを飛び出してきたことがきっかけで中学生リーダーが誕生。以来、毎年開催する中で子どもたちも成長し、現在では40歳を越えても現役のリーダーとして活動している人もいます。

現在は、キャンプだけでなく毎月1回「ONEぱーく」を開催して子どもたちと野外活動を中止とした様々な遊びを繰り広げている。これが非常に好評で定員オーバーの状態が続いている。野外活動は危険が伴うが、経験豊富なリーダーたちは「ツボ」を心得ているので、未だ致命的な怪我に至ることはない。子ども

たちは小さな怪我から「危険回避」を体得するものと考えており、「ダイナミックな遊びの展開」を常日頃から心がけている。子どもたちには無理強いはない。「いやだ」ということはさせないし、「あきた」と言えばやめる。集中力が欠けた遊びは「危険」が伴うこととなるからだ。子どもたちは興味が湧いたことには、とことん取り組んでいる。

リーダーの活動は自主性に任されており、勉強や仕事忙しい時は何を優先するかは勝手。細くても長く続けるコツはここにある。

悩みは、小学生の時「リーダーになりたい！」との気持ちが中学の部活によってそぎ取られてしまうこと。中学で離れてしまうと、リーダー活動に帰ってくる人が少ない。

今後も、子どもたちが真から笑顔になれるような活動を続けていければと思う。



5 道親ネットワーク 団体紹介

菅生台自治会

12月10日、菅生台自治会館に道親ネットワークのメンバーがお邪魔して「交流会」を開催。道親ネットワークの存在を自治会の方々に知っていただくのと、自治会の活動を学習させていただいた。

菅生台自治会は会長をはじめとして、20人の方々にお集まりいただいた。菅生台自治会では、特にサークル活動が盛ん。手芸、写真、歩こう会、男の料理教室等々の取り組みを行っており、それぞれが活発に活動を展開しており、毎年、自治会館で行う文化祭に出展・発表をしている。

また、最近独居老人が増えているので、希望者を募り、「ゆるやかな気配り」グループを立上げ、さりげない見守り活動を行っている。子どもとお年寄りの差こそあれ、これは、道親ネットワークと趣旨が共通している。

子どもに関しては、子ども会があるが、現状は祭などには参加するが、親が役員になることが面倒だと子どもを参加させない方もいるとか。そのため子どもと触れ合う活動が不十分という悩みがある。また、稗小

の要望に従って、自治会の有志が子どもたちの登下校の「見守り」にも取り組んだ。挨拶が飛び交い、子どもたちは顔を覚えてくれると様々な話をしてくれる時もあるという。

地域の人と人が寄り添い合うのが自治会だとしたら、まさに、自治会には「道親」の思想が綿々と流れており、原点がそこにあるような感動も覚えた。

地域の人々の輪が「自治会」にあるのだとしたら、道親ネットワークを広げていくためには自治会の理解と協力を得ることが前提のように思われる。自治会は、防犯灯の整備やゴミの収集の調整、防犯、防火、祭、地域連携など、様々なことに忙しく、私たち道親ネットワークが「見守り」「寄り添い」をお願いする余地はないと「遠慮」していたが、菅生台自治会と交流をしてみると、しっかりと子どものことを考え、すでに「実践」しているのだと感じた。

こうした交流会を持たせていただけたことに感謝したい。

交流会後、「アルコールを交え、本当の交流会をしませんか」とのお誘いをいただいたが、道親ネットワークのメンバーはそれぞれ「車」の利用であったので残念ながら今回はご辞退した。もし良ければぜひ本当の交流会を企画していただき、更に根っこを確認していきたい。

合同防災訓練に児童30名を含む500名程が参加!! 稗原小学校区7自治会

12月4日(日)、稗原小学校校庭で、5グループに分かれて起震車体験(震度6~7)、消火・てこを利用した救出・消防ホース接続のそれぞれの訓練を体験しました。親と一緒に児童の参加もありました。子どもたちは「学校の防災訓練では、経験できない体験をして、とても勉強になった」「来年も合同訓練に参加したい」との感想を口々に……。また、個別の訓練での感想は次のとおりです。

＊消火器による消火訓練；

「消火器が重くて一人では持ち運べない」「大きな声で『火事だあ』とまわりの人に声をかけ、怪我をしないように逃げるのが大切と消防士の方から教えてもらった」

＊消火栓ホースの接続訓練；

「見た目より軽くて、簡単につながられた」「指を挟みそうで怖かった」

＊起震車での地震体験；

「最初、足元だけ揺れていたのが、全体が揺れ始めてからは、怖くて足が全く動かなかった」「この程度の地震が本当にきたら、あせってしまいそう」

＊テコの原理を利用した救出体験；

「子どもでも持ち上げられることを知ってびっくりした」



菅生分館

25周年を祝うつどい

今春、菅生分館は開館25周年を迎えます。そこでこれまでを振り返り、これからの分館のあり方をみんなで探る「25周年を祝うつどい」を開催します。ぜひ、ご参加ください。当日25周年の記念誌も発行します。

日時 4月21日(土) 午後0時20分~5時

内容

0時20分~ みんなで歌おうコンサート

1時10分~ 菅生分館にかかわり続けて~市民からの発言

1時40分~ 記念講演

菅生分館が提起し続けたことは

藤岡貞彦氏(一橋大学名誉教授)

3時30分~ ティーパーティー みんなで交流を

「人生の最終章を安心して生きるために」 講義録出来上がる



23年9月8日から11月24日まで、菅生こども文化センターで開催された「人生の最終章を安心して生きるために」の全6回にわたる講義録が実行委員の手によって完成した。1冊300円で頒布しています。ご入り用の方は、菅生こども文化センターに電話で在庫を確認してから取りに来てください。

菅生こども文化センター ☎044-976-0444

海外の子どもたちにも学習支援を Room to Readの取り組みから

貧しさのために勉強したくてもできない子どもがたくさんいることを知っていますか?・・・菅生の三校で学習支援の講師をしている中島一郎さんに、「ルーム・トゥ・リード」の活動について教えてもらいました。

世界には今なお、読み書きができない人が約8億人、学校に行くことができない子どもが1億人もいます。教育を通じて、子どもたちに未来と希望を提供する。これがルーム・トゥ・リード(私がボランティアとして参加する国際NGO。本部:サンフランシスコ)のミッションです。多くの個人、法人から寄付を頂き、アジア・アフリカの10か国にて、学校や図書館の建設、女子教育支援などを現地のコミュニティと共同して行っています。

皆さまからの温かいご寄付をお待ちしています。銀行でのお振込の場合は、以下の寄付金専用口座にお振込ください。また、お礼を申し上げたいと思っておりますので、ぜひ tokyo@roomtoread.org までメールにてご一報ください。

銀行名: アメリカ銀行

支店名: 東京支店

口座科目: 普通預金

口座番号: 2503018

口座名: ROOM TO READ JAPAN

ATMやインターネットバンクからのお振込みの際、口座番号を入力しても口座名が自動的に出ない場合は、お手数ですが口座名に ROOM TO READ JAPAN と入力して下さいようお願い申し上げます。

